



第32回日本小児整形外科学会 学術集会 ランチョンセミナー6

小児骨折治療の Controversy

講師 **松村 福広 先生**
自治医科大学 救命救急センター 准教授

日時 2021年 **12月3日(金)** **12:30 - 13:30**

開催方式 **Webinar**※ ※ WEB でのご参加・ご視聴に関する詳細は学会 HP をご確認ください。

座長 **野田 知之 先生**
川崎医科大学 運動器外傷・再建整形外科学 教授
川崎医科大学総合医療センター 整形外科 部長

本セミナーでは、日本整形外科学会 研修講演の単位が取得できます。

単位種別・必須分野

N (2,13) : [2] 外傷性疾患 (スポーツ障害を含む)・[13] リハビリテーション (理学療法, 義肢装具を含む)

学会 HP



ランチョンセミナー 6

小児骨折治療の Controversy

松村 福広

自治医科大学 救命救急センター 准教授

小児外傷患者は学校が終わった後の夕方から夜間や休日に受診することが多く、整形外科の医師によっては敬遠される傾向がある。そして小児骨折治療は受傷後の初期治療が重要であるにもかかわらず、麻酔の必要性などから小児であるがゆえに緊急の受け入れを敬遠する病院も少なくない。このように骨折治療以外の問題もあるが、小児骨折自体の治療にも悩むことが多い。成長軟骨板が存在するため、成人とは異なった小児特有の骨折治療は馴染みが薄いかもしれない。また小児は身体が成長過程にあるため、短縮あるいは変形治療しても矯正されるのではないかという根拠に乏しい期待があるかもしれない。確かに小児といっても乳児・幼児・小学生・中学生、あるいは性別によっても成長の差から治療法は異なる。一般的に小児の骨折は保存治療が基本となるが、手術を行なったほうが良い場合もあり治療法の決定が難しいのである。そこで演者は小児骨折に対しては受傷早期の徒手整復を重要視している。整復してみなければ手術適応の判断ができないというのが正しいのかもしれない。小児の骨折治療は時に悩ましく、苦手意識を持っている若手整形外科医も少なくないと思われる。講演では比較的良好に遭遇する小児骨折の様々な治療法について代表症例を呈示しながら、それらのコツとピットフォールを述べる。

